

令和3(2021)年度 学校関係者評価

取組方法	重点目標1 個々の実態に応じた教育支援の追求	重点目標2 保護者、各関係機関との連携
校内での取組	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識に基づき、丁寧に指導している思う。このことは、アンケートにも表れている。 ・統一の書式で学習計画を作成することが、より良い現状把握になり、よい教育支援につながると思う。 ・指導計画等の見直しは重要であり、学部学年の系統性や指導内容を検証したり、精選を積み重ねたりことでより有効な指導計画になると思う。短時間で結果が出る作業ではないと思われるが、職員が一丸となってよりよい指導計画の作成を目指してほしい。 ・保護者と教員の信頼関係、情報共有とコミュニケーションについては、保護者に寄り添い、保護者のニーズを理解して話をするのが大切であると思う。 ・児童生徒の重度多様化の中で、児童生徒が中心となって活動し、「できた」という達成感や喜びを味あわせるために、教員がいろいろな工夫をされていることに頭が下る。指導計画の見直しや、検討を行うことで、先を見据えた計画の作成、準備につながることは、組織として大変重要なことだと思われる。 ・様々な意見を出し合い検討、実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や学校祭などの行事が行われないことで、保護者と学校との関係が希薄になっており、それがアンケートの結果に表れているのではないかと。運動会や学校祭で、教員と子どもたちが一生懸命出し物を演じる姿を見たり、保護者が参加したり、最後に一緒に踊ったりすることで、児童生徒、保護者、教員の生の顔が見えて、学校にも愛着が湧くものではないか。感染状況に合わせた工夫など行って、可能な形で行事を実施してほしい。 ・ICTの活用を強化しながらより良い教育の提供をしていただきたい。
保護者と連携した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の様子を個人懇談や、連絡帳で共有しており、保護者も学校の取組を理解していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションセンターとの連携は、特筆すべき点であり、どのような連携が行われているかなど、学校と保護者が「共有」できると良いと感じた。 ・保護者と先生の信頼関係、情報共有とコミュニケーションについては、真摯に受け止め、検証する必要がある。教員は、保護者は寄り添って聞き、保護者のニーズを理解して話をするのが大切だと思う。
関係機関と連携した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査のスキルと活用の向上は不可欠であり、隣接のリハビリテーションセンターの専門職に協力をお願いするとよい。 ・リハビリテーションセンターとの連携は不可欠であると思う。改善点や変更点のかを検証して進めることが大切だと思う。コロナ禍の中、対面で協議することが難しいかもしれないが、できるだけ顔を見ながらの協議が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションセンターとの連携は可能な限り対面で行えたら良いと思う。 ・医療的ケアのあるお子さんが、リハビリテーションセンター職員による見守りで、校外学習に参加できたとの評価については、とても評価できるものだと感じる。 ・資料2保護者アンケートの結果(家庭・地域・関係機関との連携について)設問5リハビリテーションセンターとの連携でAが大きく減少しているのが気になる。資料3の【考察】にもあるとおり、原因分析の結果、リハビリテーションセンター側に改善すべき点があれば依頼しても良いと思う。 ・直接対面での情報提供・発信が難しい中、様々な形で情報提供をしていることは利用者、その家族の方への安心安全につながっていると思う。

令和4(2022)年度 学校関係者評価結果に基づく改善

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、より実態に応じた適切な指導を行うために、指導計画の作成や見直し、改善を行う。 ・生活単元学習で扱われる各教科等の内容を見直すと共に、単元を整理し、小学部・中学部の系統的な指導を目指す。 ・学校行事の公開ができないことを想定した動画鑑賞等を円滑に計画・実施できるようにする。 ・各学部、各係が栃木県立リハビリテーションセンターと連携を図り、より良い教育環境を整えられるように連絡調整を行う。
